

## 地球環境学堂/人間・環境学研究科

## 徳永悠准教授

これからの時代、ますます重要になっていくだろうキーワードの1つに「グローバル化」がある。今回はそのキーワードの要素の1つである「移民」を主に取り上げ、移民史を専門とされる徳永悠先生にお話を聞いてみた。また徳永先生は三度の留学を経験されており、現在は英語の授業も担当しておられる。そこで「留学」「英語学習」についてもお話を伺った。

### Profile

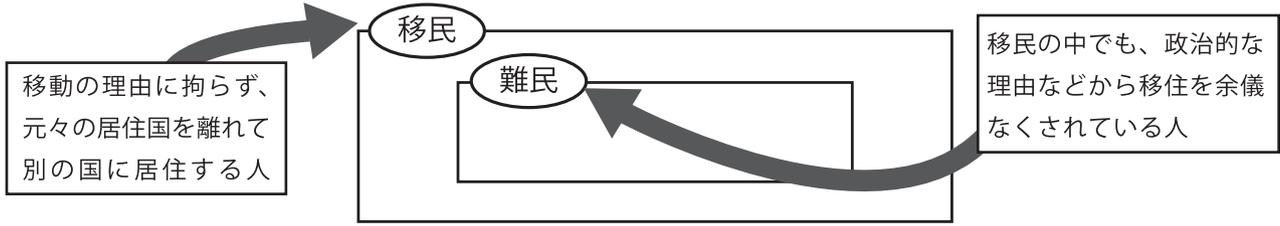
京大文学部を卒業後、2006年から4年間朝日新聞社で記者として働く。その後京大での修士課程、南カリフォルニア大学での博士課程を経て2020年より現職。



# What's the difference between "immigrant" and "refugee" ?

## 移民と難民の違いって？

以下の図が示すように、難民は広義の移民の一部と言える。



### 先生の研究について

——先生の研究内容について教えてください。

専門分野はアメリカ移民史です。社会の中で集団間に格差や差別が生じる理由や、そうした問題を乗り越えていく方法について解き明かすため、アジアとラテンアメリカから多くの人々が移り住んだアメリカ合衆国の移民社会について歴史的な研究を行っています。世界大戦や世界恐慌を経験した20世紀前半の移民社会に焦点を当てて、人種差別や経済格差だけではなく、出自や文化、国籍などの違いを超えた相互理解と共生の可能性についても研究しています。

——その研究を始めようと思われたきっかけは何ですか？

高校生の時から在日コリアンや日系ペルー人が日本で直面している格差や差別などの困難に対して問題意識があって、出自や文化、国籍などの異なる人々が共に生きていける社会をどのように築くことが出来るかということに関心がありました。その思いが京大文学部に入学した後も強まって、移民史を勉強しています。



### 移民問題について

——移民はなぜ生まれるのですか。

移民が生まれる要因は大きく分けて2つあります。1つは個人的な要因、もう1つは歴史的に形成された構造的な要因です。例えばある開発途上国の人々が、よりよい収入を得ようとして他の先進国に移住したとしましょう。それは経済的な理由によるもので、一見すると個人的な要因による移住です。しかしその人の送り出し国である途上国と受け入れ国である先進国の間には、資本主義と植民地主義が時間をかけて生み出した激しい経済格差がしばしばあるわけです。これが構造的な要因として集団的な人の移動を促進しています。その意味では、一見個人的で自発的に見えるような移動も構造的で、場合によっては強制的な移動と捉えることも出来ます。

ちなみに下宿生の皆さんは、京都大学に通うためどこか出身地から移住しましたよね。それにも個人的な要因と構造的な要因があります。なぜ私がそこに行こうと思ったのか、または、なぜ京都には多くの大学があり「学生のまち」として発展できたのか、とか、親が受けた教育

や家庭の経済状況が学生の進路にどのような影響を与えたのか、とかね。最初の1つが個人的な要因、次の2つが構造的な要因です。だからすでに皆さんも国内で「移民」を経験しているんです。「なぜ人は移動するのか」ということを考えたときに、まず自分に照らし合わせてみれば、色々分析できるわけです。

人間を動かすというのは結構難しいんですよ。例えば私が誰か学生さんを物理的に持ち上げて動かすのはすごく大変ですよ。でもその学生が「移動しよう」と思えば、もしくは思わせれば勝手に動いてくれるわけですよ。そして実際に多くの学生が京都にやってくる。そこには個人的な要因と歴史的に作られた構造的な要因があるわけですね。

——日本に住む外国人労働者の問題が近年よく議論されます。まず移民受け入れのメリットについて教えてください。

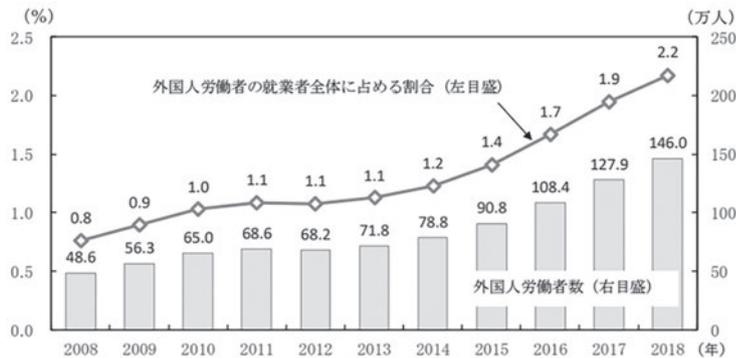
最初に誰にとってのメリットなのか、何をもちいてメリットと捉えるのかという議論をする必要がありますね。移民個人にとってのメリットなのか、受け入れ先の日本という国家にとってのメリットなのか、もしくは移民産業関連の企業にとってのメリットなのか、色々な観点があります。しかし私は、それを考える前



# The basic data about immigrants in Japan

## 日本の移民基礎データ

日本の移民をめぐる問題として、最近ニュースなどでよく取り上げられる外国人労働者問題をここでは紹介する。以下の図を見てほしい。これによると、日本で働く外国人労働者は年を追うごとに増加している。この現象は、少子高齢化等で深刻な人手不足を解消するものとして歓迎されている一方で、様々な問題が指摘されている。特に物議を醸したのは、就労環境の問題である。外国人労働者に対する賃金未払いや、セクハラ・パワハラ、暴力などが頻発しているのである。グローバル化が進みつつある今、外国人労働者はこれからさらに増えていくものと思われる。我々一人一人が知識を持ち、しっかりと考えていかねばならない問題である。



内閣府政策統括官  
(経済財政分析担当)  
[令和元年9月]  
「政策課題分析シリーズ 18  
企業の外国人雇用に関する分析—取組と課題について—」  
要旨 1 より抜粋。  
URL ;  
<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2019/09seisakukadai18-6.pdf>

(備考) 総務省「労働力調査」(各年10月時点の数字)、厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめ(各年10月末時点の数字)のデータを基に作成。

に、移民を受け入れた後にその移民たちが平等に扱われて希望を持って生きていけるか、という議論が必要だと考えています。そのような社会を支える制度や法律が国内に整っていれば、よりよい生活を求めて移住する外国人にとっても、少子高齢化や外国人住民との共生を課題とする国家にとってもメリットがあると言えるでしょう。これからの受け入れの是非について議論するよりも、すでに国内に住んでいる移民や移民の子供たちを日本の人々と同じ住民として平等に受け入れる仕組みについて議論することの方が大事だと思います。

——では、日本の移民受け入れについて先生が懸念されていることは何なのでしょう。詳しく教えてください。

先ほどの質問の答えに非常に近いのですが、すでに日本国内で働いてい

る移民を住民として平等に受け入れる仕組みを築く必要があります。例えば技能実習制度って聞いたことありますよね。この制度については、開発途上国の若者が不当な借金を背負ったり、日本の勤務先で搾取されたりするケースが後を絶たないわけです。希望を持って日本に来た外国出身の若者たちが日本で絶望するような状況が未だにあることが最も大きな懸念材料です。

一方で、私たちが普段食べている食品や使っている製品の多くが日本に住む外国人によって生産されています。日本の若者が就職を希望しないため、外国から来る若い労働者を雇わないと成り立たない産業や職場が少なくないのです。こうした状況に対する社会的な理解の低さというものが差別や搾取といったものを温存することにつながるのではないかと懸

念しています。だから国が責任を持って外国人労働者の権利を保護するべきだと思います。

——つまり、外国人労働者の問題を考える際には、まず今すでに日本で暮らしている外国人のことを考えるべきだ、ということでしょうか。

そうですね。すでに入っている人たちのことを考えること無しに、これから受け入れるときのメリットや問題というものを考えてはいけません。まずはすでに日本に住んでいる人たちの状況をしっかり理解して、その上でこれからどうすれば移民を含めたすべての人々が平等で、ありのままに生きられ、希望を持てる社会を築いていけるのか、考える必要があります。

## ——日本に来た移民が日本の文化に与える影響はありますか？

分かりやすいものだと日本の食文化が豊かになります。例えば、私が幼い頃はインド料理店というものは日本にそこまで多くはありませんでした。けれども現在では身近にありますよね。インドやネパールから来た人々が日本各地にインド料理店を開いた結果、今ではインド料理というものが日本社会の一部、日本の食生活の一部になってきているわけです。これはとても分かりやすい例なのですが、より重要なことは、目に見える形で外国文化が日本社会に溶け込んでいくということではなくて、移民との共生が日本人々の外国文化に対する理解や姿勢にどのような影響を与えるか、ということです。例えば外国にルーツのある子供たちのことを学校の先生や地域社会の人々が尊重し支えてあげるようなことが出来れば、地域社会が彼らを温かく包み込むものとなります。その結果日本の子供たちも幼少期から様々な外国文化に対する理解を育むことが出来るんですね。だから目に見える形でインド料理店が増えているということももちろん日本の生活を豊かにしているのですが、それよりも様々な外国文化に触れたときに、そのような



実際の研究のご様子

文化と関わりの深い人々に対して開かれた社会を前提として育つ子供たちが増えていけば、それが一番日本文化に与える影響としては大事なことではないかと思えますね。

## ——現在移民関連で気になるニュースはありますか。

東日本大震災から10年ということで、震災関連の新聞記事やドキュメンタリーが特に印象に残っています。私にも子供がいるので、震災で子供を失った方々の記事を読むと非常に胸が痛くなります。また福島県では原発事故によって多くの避難者が出ました。県の情報によると、2021年1月現在では36,000人の避難者がいて、その8割が福島県外で暮らしているそうです。この事実も私たちは忘れてはいけないと思います。このニュースは、移民研究の観点からも関心があります。というのは、難民というものは基本的には国外移住を余儀なくされた人々のことを言いますが、この福島から避難された方々も、ある意味では、原発を安全だとする国の政策の失敗によって移住を余儀なくされた難民だと言えると思うんですね。

移民の歴史を学ぶと、人間には生きていくうえで物理的にも精神的にも安心できる居場所があること、そしてそこに自由に行ったり住んだりできることが極めて重要だと分かります。原発事故は福島県の多くの人々から故郷に住む自由を奪ったと言えます。2011年の原発事故の被害がこのように甚大であるということと、近い将来日本で大きな地震が再び起きる可能性があるということを考える



コスタリカ留学にて

と、エネルギー政策を大きく切り替えて、原発に依存しない社会にすることが国益に繋がるように思います。



## コスタリカ留学体験談

——高校生の頃、コスタリカに留学されたと聞きました。そこでの思い出について教えてください。

普段食べていた食事のことを思い出しますね。やはり毎日食べていたものなので。コスタリカには、米と豆を混ぜ合わせたガジョピントという家庭料理があるんですよ。これをほぼ毎日ホストマザーが作ってくれて食べていました。米もジャポニカ米ではないですし、豆も日本ではあまり食べない種類のもので、最初はなかなか慣れませんでした。しかし数ヶ月すると、腸内環境が適応して好物になるんですよ。不思議なもので。

また日本との関わりで言うと、留学先の街ではネットを利用できなかったのが、コスタリカから日本に手紙を出して日本から返事が来るのに1か月かかったんです。だから日本から届いた手紙にはいつも胸がいっぱいになっていましたし、封筒を開けたときに封筒の中の空気を深く吸い込んでいました。その空気の中に日

本があるんじゃないか、と感じていたんですね。そういったことが強く心に残っています。

——スペイン語はどのように勉強されていたのですか？

コスタリカに行く1か月前から比較的薄い教科書を買って、それを日本の高校の授業中に勉強していました。そしてその本をしっかり覚えて現地に行きました。ですが、もちろん現地に行ったら人々が話していることも書いてあることもよく分からないんですね。しかし生活していく中で少しずつ周りの人の言っている言葉が理解できるようになりました。また現地の高校の友達が先生みたいになって、皆がすごく助けてくれました。ホストファミリーも自分のスペイン語を直してくれました。その結果、3か月くらいで生活上で伝えたいことは伝えられるようになりました。もちろんコスタリカなので、コスタリカならではの単語を先に覚えました。留学当初に覚えた単語の1つは「ワニ」で、「cocodrilo」と言います。ホストファミリーにスイカ畑に連れて行ってもらったのですが、そのそばの川にワニがいたときは驚きましたね。



## 留学について

——留学先の大学はどう決めるときにお考えですか。

素直に心が動く国の大学に行くべきだと思います。その国の言語が英語でなくても、その国の言語が話せるようになれば、恐らく英語も大学受験までに覚えた



## Study abroad programs of Kyoto Univ.

### 京都大学の留学制度

京都大学の留学制度には以下のようなものがある。  
(京都大学ホームページ「海外留学を希望する京大生へ」より)

交換留学	1学期から1年間、京都大学が協定を結んでいる大学に留学できる。単位互換制度があるので、留学先で取得した単位を卒業単位に含めることも基本可能。
短期留学プログラム	所要期間3か月未満で、英語研修、異文化交流など様々なプランがある。

京都大学として斡旋している留学のほかに、各学部が提供している留学もある。また形態としては他にも、インターンシップや国際ボランティアとしての留学などがある。

語彙力を駆使して話す度胸がつくと思えます。

——度胸、ですか。

はい。例えば私の場合は、スペイン語が出来るようになったから英語が喋れるようになったのだと考えています。先にスペイン語を覚えたので、それをベースに話す度胸がついているわけです。学生の皆さんは、英語の語彙力とか基本的な文法の知識とかは持っています。これを出力するときに恥ずかしがらずに出来るかどうか、という話なんです。喋るときには、その文章が文法的にたくさん間違っているのも良いじゃないですか。伝われば良いのだから。それなのにちょっとした間違ったら恥ずかしいとか、心配だとか考えてしまうと喋れなくなりますよね。だけど英語でなくても、一度自分の好きな言語を学び、「外国語を話すのって楽しい」と覚えてしまうと、「話せばいいんだ」という感覚が多少つきます。そうなれば、今持っている英語の語彙をガンガン使ってコミュニケーションがと

れるようになるんです。皆さんも、実は今の段階で外国人と大体の会話をする事が出来ます。それだけの力はあります。度胸さえつければ喋れます。だから英語を覚えるという目的ではなくて、純粋に行きたい国、自分の関心のあるテーマと関係のある国にとりあえず行ってみて、そこにどっぷりつかって、友達も作ってください。そうしていたらいつの間にかその国の言葉を話せるようになっているはずですよ。英語以外の言語を学ぶことが、今持っている英語の力を花咲かせる1つのきっかけになるかも知れないと思います。

——留学について京大生にアドバイスをお願いします。

1年以上の長期のプランを組むことをおすすめします。1年間過ごすことで、季節の変わり目を含めた現地の文化を経験することが出来ると思います。例えば日本だと春夏秋冬がありますよね。一方コスタリカだと雨季と乾季なんです。雨季だけ経験して乾期を経験せずに帰っ

てしまうと、やはり見えないものがたくさんあります。皆さんスクールって経験したことないでしょう？ すごいですよ。ポタポタってきたと思ったら急にザアツと大雨になるんですから。1年間暮らすことで、その地域の1年の変化を経験でき、そこから文化的な学びにつながります。さらに、単純な話で言葉も半年よりは1年滞在した方が身に付きます。そういった意味で1年間の留学をおすすめします。

京都大学の大学間交換留学制度を是非調べてみて下さい。私もこの制度で学部時代にアメリカに交換留学しました。今はコロナ禍で行けるかどうか分からない国が多いと思いますが、その中でも行けそうな国などの情報収集は出来ると思うので、行きたいと思っている人は調べてみて下さい。あと留学というのは自分を見つめて自分を磨く機会になるので、基本的には全ての学生におすすめします。



## 英語学習について

——先生は英語リーディングの授業やE1の授業も担当されています。そこで、難しい英文を読むコツがあれば教えてください。

量をこなすことです。学部生時代に交換留学した時は毎週50ページ以上、大学院に留学した時は毎週2、3冊、英語の本を読みました。授業の準備のためです。最初の頃は読むのが辛くて辛くて仕方ありませんでした。時間もすぐかかったし。でもそれをこなすうちに、速

く読む力だけではなく読解力も身につきましたね。

——英語をしゃべれるようになるにはどうすればよいのでしょうか。

これも量です。現地の友達とたくさん話す。そしてうまく表現できなかったところは家に帰ってからより良い表現を調べて、次回同じような話題になった時にそれを活かすことが大事です。うまく話せなかった時が上達のチャンスなんです。

また日本語と外国語では口と舌の筋肉の使い方が違います。だから英語の文章を音読したり、通学や通勤の時に独り言でしゃべり続けたりするのが効果的です。こんな感じで話せるようになりたいな、と思う人がいればその人の真似をするのも良いでしょう。こうしてたくさん話すことで、口と舌の筋肉が外国語の発音に対応していきます。筋トレのようなものです。

——その他、言語学習について京大生にアドバイスをお願いします。

それぞれの言語は、それぞれ違う世界の見方を持っています。だから単純に言うとうと、日本語のほかに外国語をひとつ覚えると、世界が2倍楽しめるんですね。さらにもうひとつ覚えると、世界が3倍楽しめます。こんな風に、物理的にはこれ以上広げられない世界を、文化的に2倍も3倍も広げられる、というのが言語を学ぶ魅力だと思います。そしてそれを達成する最も手っ取り早い方法の1つが留学かなという気がしますね。外国語にどっぷりつかる体験です。



## 京大について

——先生から見た京大の良さとは何ですか。

京大の良さは、鴨川が近いことだと思います。学生の中には、自分で考えて行動できる学生もいれば、思い悩む学生もいます。どういう状況であっても、鴨川沿いを散歩して気分転換できるということがとても良いのではないのでしょうか。

——最後に京大生にメッセージをお願いします。

自分の好奇心のおもむくままに生活してください。例えば「太平洋が見たい！」と思ったら、1人でもいい友達とでもいいので見に行ってください。学部生時代、私も仲間と共に思い付きと勢いで伊勢まで行きました。これも良い思い出です。あと、「学部生時代にもっと国内旅行しておけばよかったな」と心から思っています。コロナで海外渡航は難しい状況が続きますが、国内で行ける場所があれば、感染予防に努めながらたくさん旅行をしてください。

——本日はありがとうございました。



はみだし  
すてーじ

今年の夏は旅行に行きたいですね  
⇒旅行の定義を緩くしましょう！

「200m以上家から離れたら旅行」、みたい。  
(…はさすがに冗談ですけど、家の近くで行ったことがないところを開拓してみてもいいかも；編)

(工・院 Soso)